
~東方夢想乱舞~

十六夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「東方夢想乱舞」

【Zコード】

Z0481BA

【作者名】

十六夜

【あらすじ】

森の中で転けたら幻想入りしてしまった男の物語

幻想入り？（前書き）

はじめまして、十六夜と言います、初めてかく小説なんで読みにくいと思いますがよろしくお願ひします m(—)m

ちなみに作者は物凄い車好きです (^_-^ゞ
作品にたくさんでるかもしけないですが気にしないでトセイ（笑）

幻想入り？

何が起こった……？

わからない…

ここは何処だ…

（数時間前）

その日は友達と約束して高校生ながら秘密基地でも作るひつと森の中を散策していた。

その時だった、たしか足を滑らせて坂を「ロロロ」と転がったと思つたら変な穴のようない物に落ちた、そこからの記憶が無い。

「そして起きてみると穴の中じゃなくて草原ね……どうなつてんだ？」

見上げてみても穴なんてない、それどころか青空が広がっている。

「喉乾いた……サイダーでも飲みて～」

そう思つたとき、

「うおっ……」

なんと手元にサイダーが出てきた、

「なんで？まあいいか」

サイダーは美味しいく頂きました

その後、

「とりあえず町か村でも探すか……」

そう思い森に入つていつた、
しばらく歩いた、

「迷つた……」

ガサツ

背後から不気味な音がしてきた、

(ちょ、マジですか？熊ですか？それともなんかもつとヤバいやつ
?)

後ろを向いて身構えようとしたその時、
それは現れた、

「グガアアアアアアーー！」

「なんだコイツー！」

それは俺を見るなり襲い掛ってきた、

(ヤバい!! 壁かなにか盾になるもの……)

「うわあああああ……」

俺、死んだな。

その時、

目の前に大きな壁が出てきた、

「グオツ?」

突然現れた壁にそいつは驚いたのか怯んでいた、

「今のはしごつ……！」

やつとの思いで俺は逃げた、そして森を抜けた、

「た……助かつた……」

しばらく歩いたら川があった、

(そういえば壁の事想像しただけで壁が出来たな……サイダーも……、
もしかして?)

車を想像してみた、
すると、

立派な俺仕様のランサーエボリューション? が出てきた、

「つまおおお……」

(マジで…もしかして俺なんでも作れたりするの?なら次は…家
?ついでにガレージも)

豪邸が出てきた、
ガレージ付きの、

(ハハハ)かわからんないけど…
「ハハで暮らしちゃおつと」

ハハの男は幻想入りした、

「次の日」

「オオオーンー!」

森の中に爆音が響いていた、

「ヤツホーイー!」

その男はひたすら走りこんでいた、
その森である人にで出合つた、

「うわっ…」

いきなり前に人が出てきた、

「ドリフトー!」

ガガガガガー！！

ギリギリ回避できた、

「危ないな！！なにしてんだよ！！」

魔理沙は正直ビビっていた、なんせキノコを探してたら変なのが突つ込んできたからだ、

「悪い！！大丈夫か？」

それから出てきたのは外来人の男だった、

（か…カツコいい…）

それが第一印象だった、

「誰だ、あんた？この辺じゃ見ない顔だな、」

「俺は武藤龍輝、お前は？」

「あたしは霧雨魔理沙、よろしくなつ！」

（ん？霧雨…魔理沙…まさか…）

「あの…魔理「魔理沙でいいぜ」んじや魔理沙

「なんだ？」

「もしかして『』って幻想郷？」

「そうだぜ？」

（マジで？んじゃ俺東方の世界に？）

「そうか…わかった、んじゃ、またな」

「ちよっと待てよーどこか行く宛あんのか？」

「ある、来るか？俺の家」

「いく！」

「わかった、とつあえず乗れ」

そうして俺は魔理沙を乗せて家に帰ることになった、

「じつかりつかまれよ！――」

「わかった！――」

「オオオオン！――

けっここう飛ばして帰った、

「ついたぞ？」

「楽しかった～　また乗せてくれよ？」

「はいはい、まあ帰りも乗せてくから」

「やつたぜ　」

「んでこれが俺の家」

俺は目の前の豪邸を指差した、

「でかいな！スゲー……」

「まあ入ってくれ、お茶だすから座つとこてくれ」

「わかった」

それから魔理沙に幻想郷のことやスペルカードのこととか色々聞いた、

「そろそろ帰るか？」

「おひ

その後、魔理沙の家についた、

「後であたしの家でお茶しようぜ　」

「いいぞ、そんときに魔理沙の友達連れてきてくれないか？」

そう言つて少し嫌な顔をしたが、

「いいぜ」

と言つた、

「んじゃなーーー！」

「おひーーー！」

「オオオオオン！！」

魔理沙は龍輝が見えなくなるまで見ていた、

「誰呼ぼつかな…？靈夢でいいか」

そう言いながら家中に入つた、

「オオオオン！！」

龍輝は家までラリーの練習をしながら帰つた、

「ただいま～」

誰もいない家に俺の声が響く、

「家…帰りてえな…」

その日はそのまま翌間のソファーに寝た、

幻想入り？（後書き）

「ランサー エボリューション」？マジでカッコいいですよ
気になる方はググってみて下さい

それでは感想下さい、あと誤字脱字あつたら報告お願いします m(—)m

お茶会へ（前書き）

更新ものすごく不定期です、あまり暇ではないので…
「」を承下せよ（――） m

お茶会?

（翌日）

「……んつ……朝か……」

「もう暁だぜ？」

あれっ？

なんで家に一人しかいないはずなのに声が？
えつ幽靈？それとも妖怪？しかも暁かよ、寝すぎたな～

「どうした龍輝？」

声を聞いて思い出した、これ魔理沙の声じゃん、ん？魔理……

「てかなんでいるんだ！！」「いや～、昨日家帰つてみたら部屋が
汚くてな～アハハハ…だからとりあえず神社いこつぜ…！」

（あんな部屋みせられないしな）

「神社？」

「うん、あつ外来人だから知らないか、博麗神社つてとこだ、そこ
にあたしの友達がいるから」

（博麗神社キターー（・・）ーーー！）とは靈夢がいるのか？）

「わかつた、んじや行こつか」

「せういえばお前飛べないのか？」

「えつ？」

飛ぶ？いやふつー無理だから、羽根でもないと飛べないだろ

「ワカラン」

「わうなのか」

いやでももしかしたらできるかも…

「うひつじ試してみる」

「どうすんだ？」

「妄想？（笑）」

そう言いながら魔理沙と外に出た、

（とつあえず背中に羽根を…）

「うわつ…お前羽根生えたぞ…！」

「まあ見てて」

これで飛べるかな？まあ物は試しだ、

「行くぞ…！」

うん、見事に飛べました、空飛ぶの楽しいかも…

「魔理沙！…俺飛べた！！」

「羽根つて…お前妖怪なのか？」

まあごもつともな意見ですね、ふむ…

「残念だけど人間だわ（笑）」

「だよな～」

「これが俺の能力みたい」

「空を飛ぶ程度の能力？」

「なんでも作れる能力かな？家も能力で作ったしな」

「へえ～、まあ行けづば」

「おう」

（移動中）

「ついたぜ」

「疲れた…」

さすがに慣れない動きは疲れる、でも楽しいし以外と気持ち良い、

「靈夢～、お～靈夢～居るか～」

「うるさいわね…ねえ隣の妖怪か何かなの？」

「あ～、俺、武藤龍輝って言つます、んでこの羽根は俺の能力のひとつです」

「ああ、やうなの、私は博麗靈夢、よろしくね」

「よろしく～」

「で…、といひで向しこ来たの？」

「お茶会だぜ」

「はあ～…そんなもんだと思つたわ、いいわ、あがつて

「んじや お邪魔します」

「邪魔するやつ～」

以外と広いな～、とか思つてこると、

「は～お茶」

猛烈に指入つてゐ～…「」とはなかつた、まあそれが普通なん
だけどね（笑）

「は～魔理沙」

「ありがと」

（少年と少女雑談中）

話し込んでいて時間の経過に気がつかないでいたらもう口が暮れていた

「そろそろ帰るよ」

「そう、気を付けなさいよ、最近なぜか妖怪達が活発化してゐた
いだから」「わかった

「ぐ～…

「魔理沙、起きなさい、そして帰りなさい」

「ひこちはつ…ひこちはつ…」時間か、「

「そうよ、それとあの人帰っちゃったわよ?」

「そうか、ならあたしも帰るかな、んじゃ…」

「さつまうと魔理沙は帰つて行つた、
ちよつどその…」

「グアアアアアア…！」

「マジで妖怪キター…！」

俺は妖怪に襲われていた、しかもその妖怪は弾幕を使つてくる、初心者の俺こはけつこいつキツイ、

「ヤバッ！！」

とつやに壁を作り出して盾にする、

俺の能力で攻撃なんて出来るのか？ええい！…ダメ元でやつてやる
！！

適当にスペルカードを作つてみる

「雷符・雷撃無双！-！」

無数の雷が妖怪に襲い掛かる…！

「グアアアア…」

「倒した～…、疲れた…、早く帰ろっと」

そのあとは妖怪に襲われることなく無事に家についた、

「ただいま～」

しーん…

「はあ…誰か居ればいいんだけどな…」

そのまままたソファーにもたれ掛かつて寝た、

お茶会？（後書き）

読んでいただきありがとうございました
初心者なのでストーリーの構成が下手なのでよみすらいいかも知れま
せんがよろしくお願ひします m(—)m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0481ba/>

~東方夢想乱舞~

2012年1月14日20時46分発行